震災復興コンサート『チェン ミン LIVE』

11 月 11 日、みやぎ生協生活文化部主催の『チェン ミン LIVE』が、東北大学百周年記念会館川内萩ホールで開催されました。みやぎ生協では、3 月 11 日の東日本大震災以降、お茶会やおゆずり会、落語など、被災者の復興支援のために、さまざまなイベントを県内各地で開催してきました。東日本大震災から 8 ヵ月目に開催された、今回の『チェン ミン LIVE』も、これらの活動の一環として実施されたものです。また、今回、中国の伝統的な弦楽器である二胡を演奏するチェンミン氏のライブが企画されたのは、震災の傷跡がまだ深く残る被災者の方々へ、「ゆったりとした気持ちで、しみじみと心に染みる音楽を楽しんでもらいたい」という思いからでした。すべての来場者は、全壊・半壊の罹災証明書を見せれば、1000 円の鑑賞料は無料になります。

大きな津波の被害のあった石巻から訪れた方々が、
バスを降りライブ会場へ。

開演が迫ると、会場となった川内萩ホールの正面玄関には、大型のバスが次々と到着しました。このバスは、みやぎ生協が設置した「仙南」「石巻」「県北」の 3 ヵ所のボランティアセンター発着の 5 台の無料送迎バスです。これらのバスは、津波の被害が大きかった「岩沼」「亘理」「名取」「石巻」「気仙沼」などの沿岸部の方々に、ライブを楽しんでもらうために運行されたもの。会場には 880 名の組合員を中心とした方々が訪れたが、そのうち 230 名は沿岸部からバスで来られた方々でした。

東北大学百周年記念会館川内萩ホールに、
880 名の組合員を中心とした来場者が訪れました。

開演前、すべての人が起立し、東日本大震災で亡くなられた方への黙とうが捧げられた。その後、みやぎ生協理事長の齋藤昭子氏から「3 月 11 日の東日本大震災をいつまでも忘れないために、そして、被災者の方々が日常を取り戻すきっかけになってくれれば」と、イベントの趣旨が述べられました。

『チェン ミン LIVE』では、『蘇州夜曲』や『As Time Goes By』といった馴染みのある曲や、NHK の大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』のメインテーマの曲などが、ギターと

チェロのトリオで演奏されました。第一部で８曲、途中休憩を挟んで、第二部で７曲、さらにアンコールでは、会場となった東北大学出身の小田和正氏の『生まれ来る子供たちのために』も二胡で演奏されました。さらに、チェンミン氏から「私たちは悲しみを乗り越えて、生きていかなければいけません」という気持ちのこもったメッセージが日本語で送られました。来場された方々は、哀愁ただよう二胡の調べの中で、この８ヵ月間のさまざまな思いを胸に、ライブを鑑賞されていました。

チェンミン氏は、二胡の演奏の他、
歌を披露する場面もありました。

さらに、今回、参加されていたボランティアセンターのお三方に、現在の震災８ヵ月後の被災地の様子や今回の演奏についてお話を聞きました。

石巻ボランティアセンターの秋山真弓さんは「震災から８ヵ月が経ち、石巻周辺の被害の大きかった場所は、がれきの片づけは大方済み、現在は何もない更地になっています。家を失った多くの人が仮設住宅に入っていますが、２年たてば出なくてはいけないので、今後のことにとても不安を抱いています。これまでも石巻では、生協の店舗などでお茶会などを開催してきました。そして、会話や情報交換を通して、多くの組合員が明るくなるのを見てきました。また、ミュージシャンのクミコさんや EPO さんにも、店頭でライブを行ってもらったこともあります。音楽を聴きながら、震災当時のさまざまなことを思い出した、という声も聞きました。今回の、チェンミンさんの二胡の演奏も、鑑賞された方々が、さまざまな感慨をもって、音楽を聴いたことと思います」と話してくれました。

仙南ボランティアセンター　森浩子さんは、「仙台の南の地域は、これまで津波による大きな被害を受けたことがありませんでした。近々で言えば、2010 年のチリ地震の際の津波も、県北地域では被害が出ても、仙南は大したことはありませんでした。そのためか、多くの人が避難が遅れ、今回の津波では大きな被害を受けました。私自身も家が流され、避難所生活を体験しました。その後、アパートで暮らし、現在はようやく一戸建ての家に移ることができました。自分自身も被災者ではありますが、少しでも周りの方々にお役立ちできればと、ボランティア活動に参加しています。今後の不安から、仮設住宅に閉じこもってしまったり、心や体に不調をきたしたりという人も増えてきています。今回のライブのような、さまざまなイベントが、多くの方が立ち直ってくれるきっかけになってくれるとよいですね」と答えてくれました。

県北ボランティアセンター　菊地ひろ子さんは、「気仙沼では、会社を再開したり、漁業の加工場などで仕事が決まった人なども出てきたり、少しずつですが復興に向かっています。しかし、仕事が見つからなかったり、家を建て直すめどがたたなかったり、相変わらず先行きが見えない状況も続いています。被災者の中にも、生活に明暗が分かれ始めてい

るのかもしれません。私は、ボランティアセンターの活動にも参加していますが、助ける側も、助けられる側も、被災者という状況の中で、すべての人が助け合って進んでいます。今回の参加者の中にも、家を失ったり、家族を失ったり、さまざまな被害を受けた方が多くいます。まだ、ほとんどの人が、震災の影響から立ち直っていない。そんな中で、チェンミンさんのライブを鑑賞しました。二胡の美しい音色を、穏やかな気持ちで鑑賞でき、本当に心に染みいりました」と語ってくれました。